

(其) 利子及び配當

(1) 利子

企業カラ個人ニ支拂ハレル利子ハ長期債ノ利子ニ限ルト假定スル。即チ短期債ノ利子ハ總テ企業ニ支拂ハレ、個人ニ支拂ハレルモノナク、又個人企業ノ長期債ハ無視スルヲ差支ヘナイ程ノ少額ナリト假定スルワケデアル。

内國徴稅局ニ報告セラレル一〇〇〇（一九三五年以降二〇〇〇）以上ノ會社ノ考課狀ニヨリ其ノ長期債合計ヲ算出シ、コレニ考課狀報告會社ノ收入金ト全國會社總數ノ收入金ト、比率ヲ乘ジテ全國會社ノ長期債總額ヲ算出スル。

次ニ長期債年平均利子率ヲ考課狀報告會社ニ就キ、當該年間ノ利子ノ實際支拂額ヲ長期債現在額（事業年度ガ四月カラ九月迄ノ間ニ終ルモノハ其ノ年度末ノ數字。十月カラ三月迄ノ間ニ終ルモノハ年度末年度初ノ平均ヲトル）デ除シテ求メ、コレヲ前

19

(2) 配 當

記全會社、長期債總額ニ乘ジ長期債利子額ヲ算出スル。
 茲デ算出スル利子額ハ各産業ニ於テ乘ジタ利子額ナル故、以上
 ノ利子額ヨリ會社ガ他ヨリ得タ長期債ノ利子額ヲ控除セネバナ
 ラナイ。而シテ會社ノ保有スル長期債ハ公債ニ限ラレルモノト
 假定ノ下ニ、公債利子支拂額（大藏省、國勢局ノ報告ニヨル）
 及ビ個人抵當權者ノ支拂利子額（抵當額ニ平均利率ヲ乘ジテ算
 出）ヲ控除シ、且ツ外國トノ利子、配當額、收支差益（兩稅省、
 國際收支調ニヨル）ヲ加減シテ最後ノ結果ヲ得ル。

各産業ノ配當金ニ就キ、個人ニ歸屬スルモノト、他ノ産業ニ歸
 屬スルモノトノ割合ガ不明ナル爲、會社ガ支拂フ配當金カラ受
 取ル配當金ヲ控除シタ殘額ガ個人ニ支拂ハレタ配當金ナリト假
 定スル。各特定ノ産業ヲトツテ見レバ、其ノ支拂ハレル配當金
 ト受取ル配當金トノ割合ハ、個人ニ支拂ハレル配當金ト他ノ産
 業ニ支拂ハレル配當金トノ割合ト無關係デアリ、支拂ハレル配

20

金ト受取ル配當金ト、并ニハ個人へ支給ハレ、配當金トハ大
 イニ異ルデアラウゾ、各産業ニ於テ生スル配當即チ受取ル配當
 ヲ控除シタ純支拂配當、合計ハ個人ニ支給ハレタ配當、總計ニ
 表ハスニ相違ナイ。從テ本推計、各産業別、配當金ノ意味ハ、
 全体トシテ個人ニ支給ハレル配當金ニ對スル當該産業ノ寄與分
 ヲ示スニ適ギナイ、テアル。配當金、支給及受取額ノ食料ハ
 内國徴稅局ノ所得統計年報ニ據ル。

(ハ) 個人企業利益(個人企業ノ所有者、共同者並獨立業者ノ所得)或
 ル産業ニ就テハ、個人企業ノ利得平均額ハ當該産業ノ實額平均額
 又ハ實額係平均額ニ等シイト假定シ、ソレヲ個人企業者推定數
 ニ乗ジテ算出スル。他、産業ニ就テハ、個人企業ノ總收入額ニ對
 スル企業利得額ノ比率ハ當該産業ニ於ケル總收入額ニ對スル
 報酬ト配當金ト、合計額ノ比率ニ等シイト假定シテ、個人企業
 ノ總收入推計額ニ乘ジテ算出スル。自由業等

21

(H) 純地代及特許權使用料
 一、就ニハ、調査ノ數字ニ據リ算出スル。

一九三〇年人口調査「センサス」及び種々ノ産業調査ニ基キ地代支拂總額ヲ算出シ、コレヨリ會社ノ收得シタ地代額（所得統制年報ニ據ル）ヲ控除シテ個人ニ支拂ハレタル地代總額ヲ算出スル。地代ヲ得ルニ要シタ原價即チ利子、租税、保険料、償却費、修繕費等ハ據ルベキ資料無キ爲、家屋及不動産部門ノ專門家多數ニ就キ純收益割合ヲ求メ、此ノ比率ヲ前述地代總額ニ乗ジテ、純地代額ヲ算出シ、コレニ特許權使用料ヲ加算スル。一九三〇年ノ數字ヨリ所得稅報告ヲ提出スル個人ノ地代收金額、年々ノ趨勢値トコ、所得稅報告ヲ提出スル個人所得ノ全個人所得ニ對スル比率（兩者、配當收入額ノ比率ニヨル）トニヨリ、他ノ年ノ數字ニ算出スル。

尚ホ此ノ純地代、特許權使用料ハ産業別ニ分類セラレズ、金融、

22

保險業ノ不動産ノ項目ニ含まシメル。

(二) 企業貯蓄

(1) 會社

前掲所在統計年報ニヨリ租税ヲ控除シタ會社純益額ニ、資産ノ賣却損ヲ加ヘ、資産ノ賣却益ヲ差引キ（二）國民所得ノ範圍内ニ前述セシ如ク、資産ノ賣却益又ハ賣却損ハ、所得トハ考ヘザル故、コノ高ノ修正ヲ要スルヲケル會社ノ純所得ヲ算出スル。此、會社純所得額之ヲ實際配當額ヲ控除シテ會社貯蓄額ヲ得ル。所得統計年報、資料ハ當該年ノ二年後ヲナケレバ利用出來ナイ故、新シイ年、數字ハ考課狀報告會社ノ貯蓄額ノ年々ノ變化額合ニヨリ算出スル。正ノ貯蓄額ガ負ノ貯蓄額ニナリ、又ハ其ノ反対ノ場合、或ハ極端ナ割合ノ變化ノ場合ニハ、先ツ考課狀報告會社ノ純所得ノ年々ノ變化割合ニ基キ、會社純所得産額ヲ算出シ、ソレヨリ同様ノ方法ヲ算出シタ實際配當額ヲ控除スルノ

23

方法 = ミル。

(2) 個人

個人企業ノ賣上高ニ對スル純所得割合ハ、會社ニ於ケル賣上高ノ純所得割合ニ等シト假定シテ、各個人企業ノ賣上高ニ會社ノ純所得割合（會社ノ純收益額カラ資本金、賣却額ヲ差引キ、賣却損ヲ加算シ、更ニ會社職員ノ報酬額長期債ノ利子支拂額ヲ加算シタモ、テ總賣上高ヲ除シテ算出）ヲ乘ジテ、個人企業ノ純所得額ヲ算出シ、コレヨリ個人企業利益額ヲ控除シテ取ル。

但シ農業ニ於ケル貯蓄額ハ農業經濟局ノ資料ニヨリ農業純所得ヨリ生産費ヲ控除シテ農業者ノ純所得ニ算出シコレヨリ農業者ノ推定利得額（一人當リ利得額ハ農業ニ於ケル負債額ニ等シト假定）ヲ差引キ、算出スル。

第五章 本推計ノ限界（正確度）

214

(一) 一般的事項

(イ) 國勢調査ノ有スル産業ノ推計ハコレ等ノ産業推計ニ比シ遙カニ正

確デアル。而シテ從來、公務、水運、自動車運輸、金融、保險、

自由業、家庭用務等ニ關シテハ國勢調査ナクダテ公務、水運、自

由業等ニ就キ照會調査ニヨリ資料ノ缺乏ヲ補ツテキタノデアルガ

一九三五年ノ産業調査ハ全産業ニ亘リ新シイ資料ヲ附加シマタ

來ノ推計ヲ訂正シタ。又同年ノ土木建築業調査、一九二九年以降

二年目毎ノ製造工業調査ハ夫々當該業ノ數字ヲ訂正シテキル。何

ホ「サーヴィス」産業等ニ於ケル照會調査ノ範圍ヲ次々ニ増加シ

テ其ノ正確度ヲ高メテキル。

(ロ) 國勢調査ノ年カラ遠イ推計程誤差カ大ニイ。ソレハ國勢調査ノ基

礎數字ノ外挿、内挿ニ使用セラレ、労働者數、賃銀支拂額其ノ他

ノ推數ハ實際ノ趨勢トハ可成リノ喰違ヒガアルコトガ後ニナツテ

見ルト分ルカラデアル。

25

(ハ) 會社企業が大部分ヲ占ムル産業ヲ推計ハ個人企業ガ支配的ナ産業
推計ニ比シ正確デアル。特ニ個人企業ノ利得並貯蓄額ノ推計ハ
資料ニ乏シク誤差モ大デアル。

(ニ) 所得稅報告ニヨル「所得統計」ニヨル産業別分類ト國勢調査
ノ産業別分類ト同一デナイ。従来、勤務所得ト財產所得トノ比較ガ
困難トナル。即チ大會社ノ營業ハ往々鑛業、製造工業、運輸業、
商業ノ各分野ニ亘ツテ居リ、國勢調査ノ場合ハ賃銀、俸給等勤務
所得ハ各産業毎ニ推計セラレルガ、所得稅報告ノ場合ハ會社ノ主
要ナル産業ニ一括シテ報告セラレルデアル。更ニ親會社ガ子會
社ノ分チ一括シテ報告スル場合ト、兩者別ニ報告スル場合トニ於
テ此ノ困難ハ倍加セラレル。税法ノ改正ニヨリ一九三四年以後ハ
鐵道ヲ除キ從來親會社ニ一括シテ報告サレテキ子會社ハ別ニ所
得稅報告ヲ提出スルヲ要スルコトナリ、配當、利子、會社貯蓄
ノ産業別分類ニ變化ガ生ズルコトナッタ。其ノ爲取敢ヘバ一九

26

(二) 各項目ノ正確度

(イ) 企業貯蓄

三三年ニハ一括シタ所得稅報告、一九三四年ニハ分割シタ所得稅報告ニ提出シタ會社ノ資料ニ基キ一九三四年ノ數字ヨリ一括シタ基準ニ修正シタ。尤モ此ノ變化ハ産業別分類ニ於ケル變化デアリ、財產所得ト會社貯蓄ノ總額ハ不變デアル。即チ仔細會社ヲ別提スルコトニヨリ配當支拂總額ハ増加スルガ、同様ニ受取額モ増加シ結局個人ヘノ配當支拂總額ハ不變トイフコトニナル。

(1) 會社貯蓄ノ推計ニ於テハ會社ノ報告スル老課狀ノ資料ヲ國民所得推計ノ資料タラシメコトノ困難ナ事情ガ存スル。即チ老課

狀ハ各企業ノ私經濟ノ立場ヨリスル資料デアルカラコレヲ國民經濟的立場ヨリスル資料ニ修正セネバナライ。此ノ場合最モ問題ニナルハ償却費ト拂却品ノ評價デアル。企業ノ立場カラハ老課狀ニハ生產過程ニ於テ實際ニ減耗サレタ

27

以上ノ價却費及ビ貸到レ不時ノ災害其ノ他ニ對スル準備金ヲ計
 上スル場合多ク此ノ場合ニハ考課狀ニ基ク企業貯蓄ノ推計ハ實
 際ノ減耗費ヲ超エル額タケ適少評價セラレルコトナル。
 棚卸品ノ評價モ考課狀面ニ於テ原價又ハ時價ノ中低イモノデ評
 價セラレレバ、不況時代ニハ生産物ノ量ニ關係ナク價格下落ニ
 ヲツテ企業貯蓄ハ減少スルコトナル。「クツネツツ」ノ調査
 ニヨレバ一九二九年カラ三五年ニ亘ル間ノ企業貯蓄累計額ハ此
 ノ價格ノ點ヲ修正スレバ約四分ノ一ヲ減額セラレルコトナル。
 (2) 個人企業ノ貯蓄額推計ハ資料不足ノ爲更ニ不正確デアル。此ノ
 コトハ從テ個人企業或ハ個人業者ガ支配的デアル農業ノ貯蓄推
 計ニ於テ著シイ。農業ニ於ケル貯蓄額推計ハ前述ノ如ク農業者
 平均利得額ヲ農業労働者ノ賃金ニ等シイト假定シテ農業者純所
 得カラ個人企業利得ヲ控除シテ得ルノデアルガ、此ノ場合後者
 ノ變動前者ニ比シテ遙カニ小テアル爲企業貯蓄ノ變動ヲ過大ニ

ニ評價スル結果トナル。

(ロ) 純地代、特許權使用料

若干ノ企業ニ於ケル地代ガ計上セラレテキナイガ目下コレ等ノ推計準備中デアル。

(ハ) 利子

個人ヘノ利子支拂額ヲ推計スル爲ニハ企業相互間ノ利子支拂額ヲ控除セネバナラズ、此ノ爲短期債利子ハ總ベテ銀行及ビ他ノ企業ニ支拂ハレ且ツ企業ノ受取ル長期債利子ハ公債利子ニ限ラレルト假定シテ計算シタノデアルガ、此ノ最後ノ企業ノ受取ル長期債利子ニ關シテハ更ニ資料ヲ蒐集中デアリ此ノ結果、利子支拂額ヨリノ控除額ガ増シ結局個人ヘノ支拂利子額ハ現推計額ヨリテ減少スルコトト見ハレル。

(ニ) 財産所得、企業貯蓄額推計ノ新シイ數字ハ所得統計年報ヨリ絶エズ訂正セラレルモノデアル。(所得統計年報ハ調査年ノ二年後ニナラナイト利用出來ナイ。)

第六章 本推計ノ示ス意味内容

(一) 生産國民所得

生産國民所得推計ハ國民經濟ノ生産力ノ貨幣的尺度トナルモノデア
 ル。換言スレバ米國民ノ經濟活動ノ部分ヲ成ス個人ノ勤勞ノ生産物
 ノ市場價格ニヨル評價ヲ示スモノデア。タダ、既ニ見タ如ク、家
 庭ノ主婦ノ勤勞、家族ノ自己ノ爲ノ用務（「ヒゲソリ」、自動車掃
 除、家屋ノ塗装、修繕等）、自己所有ノ家屋、自動車、家財、家具
 等ノ效用ノ價額ハ含マレズ、カカル勤勞ガ市場ニ求メラレル場合（家
 僕ニ雇ヒ、家屋ヲ賃シ、人ヲ雇ツテ修繕サセル等）ハ推計中ニ含マ
 レル故、景氣ノ變動ニヨリ本推計ノ數字ハ實際ノ生産力トハ相當ニ
 相違スル場合ガアル點ニ注意セネバナライ。雜役所準ヲ含マレテ
 キナイコトハ、此ノ點ヲ更ニ強メル結果トナリ。即チ不況ノ際ハ雜
 役所得ハ他ニ比シテ割高トナリ、從テ此ノ種ノ仕事ハ家庭デナサレ
 ルコトニナリ、國民所得推計ハ生産力ノ實際トハ更ニカケ離レテ低

30

下スルノデアリ。

(二) 支拂國民所得

支拂國民所得推計ハ個人ニ流レ込ム購買力ノ貨幣總量ヲ示ス尺度トシテ、且ツ各種勤勞ニ對スル之ガ分配ヲ示ス尺度トシテ重要デアリ。勿論、個人ノ購買力ヲ形成スルモノニシテ本推計ニ含まレナイモノハ資産、賣却金、借入金、貯金引出額、受取保険金、贈與相續收入金、投機利益、慈善金等アルト共ニ、他方嚴密ニハ購買力ト見ラレナイモノハ現物給與、農業者ノ自己消費物、貯蓄銀行、住宅組合、生命保險會社等ヘノ利子、配當支拂額等モ含ム點ニ注意シナケレバナラナイ。併シ或ル意味テハ、支拂額ノミナラス個人ノ資産、信用ヲ購買力ノ尺度トナルモノデアラウ。

(三) 企業貯蓄

生産國民所得ト支拂國民所得トノ差額ナルコノ項目ハ、好況時ニ於ケル企業ノ純生産物蓄積ノ程度、不況時ニ於ケル企業ノ過去ノ蓄積

、減損程度ヲ或ル程度示スニ止マル。企業貯蓄ハ普通ニ云ハルル企業ノ利益トハ全然異ナリ又一國ノ資本ノ増減ヲ示スモノデキナイ。資本ノ増減ハ寧ろ價格水準ト個人ノ貯蓄額ニ依リ影響セラレル點遙カニ大デアル。

(四) 以上三個ノ推計ノ示ス意味

然ラバ以上三個ノ推計ヲナス必要ハ何處ニアルノデアルカ。企業ガ留保スル純所得モ他ノ生産物ニ對スル購買力ヲ現ス點デハ個人ノ手ニ屬セラレタ所得ト異ルトコロハナイ。シカシ所得ガ消費者ノ品物ニ使ハレルカ、生産者ノ品物ニ使ハレルカ、資本ノ形成トナルカ、即時ニ消費セラレルカ、兩証ニ使ハレルカ、勤勞ニ使ハレルカハ、或ル程度所得ガ個人ノ手ニアルカ、企業ノ手ニアルカニ依存シテキル。所得ヲ個人ト企業トニ會社トノ間ヘノ分配事情ガ消費、貯蓄、投資、個人ノ購買力ニ影響ヲ與ヘル限リニ於テ、生産所得ト支拂所得トニ區別シテ國民所得推計ヲ出スコトハ望マシイワケデア

32

（一）業種別國民所得額（單位：百圓）

國民所得總額	一九三〇年	一九三五年	一九三九年	一九四〇年
農業	五、六二二	五、二七六	五、七五〇	五、九五〇
礦業	一、三二七	一、〇二八	一、二九九	一、四二二
有煙炭	二、六四	一、三一	一、〇〇	一、一九
無煙炭	五、二一	四、四四	五、〇一	五、五九
石油	一、六三	一、三一	二、五一	二、九六
非石油天然瓦斯	一、六九	一、八七	一、三八	一、五六
製造工業	一、五〇八	二、三三四	三、〇八九	二、九二
飲食料、煙草	二、〇一〇	一、八〇七	一、六三八	一、九一六
製紙印刷出版	一、八四四	一、三四五	一、五七六	一、七〇七

33

織維、皮革	建設資材、家具類	化學製品、精油	金屬及金屬製品	雜工業、ゴム	土木建築業	運輸業	鐵道	水運	自動車運	軌道	航空運	導管運
二一三一	一、四一一	一、一四一	五五〇四	四四三	二六〇三	六一六七	三八五九	四七一	一、〇四六	六二四	十一一〇	一七七
二、三一	九五一	九三一	四三〇三	四七九	八七二	四一四	二、四〇四	四一	八三五	三五三	一一三	一二八
二、七四〇	一、四四三	一、三二五	六一〇一	六五六	二一三四	四九六〇	二、八二二	五九四	一、〇七七	三四七	三三三	一三六
二、七九六	一、六一六	一、四五三	八一二八	八一	二、四〇一	五二九三	二、九九六	五九四	一、一六八	三五九	四九	一二七

35

州、郡、町、村、 公學區	用務（サービス） 薪 葉	
四、三、一、九	八、九、二、五	三、四、七、〇
四、〇、一、九	六、八、三、八	二、六、九、五
四、七、六、九	八、八、三、九	三、四、〇、三
四、九、三、三	九、二、八、五	三、五、九、六

36

(二) 種目別國民所得額 (單位百萬弗)

國民所得總額 (生產所得)	被僱者報酬	俸給、賞銀	俸給、賞銀、 追加額	失業救済金 賞銀	雇主、社會保 險分擔金	其他、勤勞所得	會計企業純所得	株主配當純額	企業貯蓄
一九三〇年	六八、九八三	四七、八五三	四七、三八八	四六、五	一	四六、五	一、七二三	五、六三四	(一) 三、九一一
一九三一年	五五、八〇八	三七、一九九	三五、三五五	一、八四四	一、三二九	五、一五	一、六六八	二、九三一	(一) 一、二六三
一九三二年	七〇、六七四	四八、一二八	四四、三四九	三七、七九	一、八七〇	一、二八二	六、二二七	三、八〇六	三、七六四
一九三三年	七六、〇三五	五、八一六	四八、一五八	三、六五八	一、五七七	一、四一四	六、六七	四、七六六	四、一五〇

37

個人企業純所得	農業	其他	企業者所得	企業貯蓄	利子純額	地代、特許權使用料純額	企業ノ支拂總額（支拂所得）	配當、利子、地代、特許權使用料純額
一〇、六五三	四、一五二	六、五〇一	七、六八〇	(一) 一、一七九	六、〇八〇	二、六七四	七、四〇七、三	一、四、三八八
一〇、一四七	四、三八〇	五、七六七	五、八四八	(一) 八一	五、一〇三	一、六九一	五、七、一五二	九、七、二五
一一、八五	四、七八〇	七、〇七五	七、〇五〇	二五	四、八八四	二、〇〇一	七、六〇七	一〇、六四九
一二、四四七	四、九七〇	七、四七七	七、三四三	一、三四	四、九三五	二、〇七一	七、五、二八五	一一、一五六

